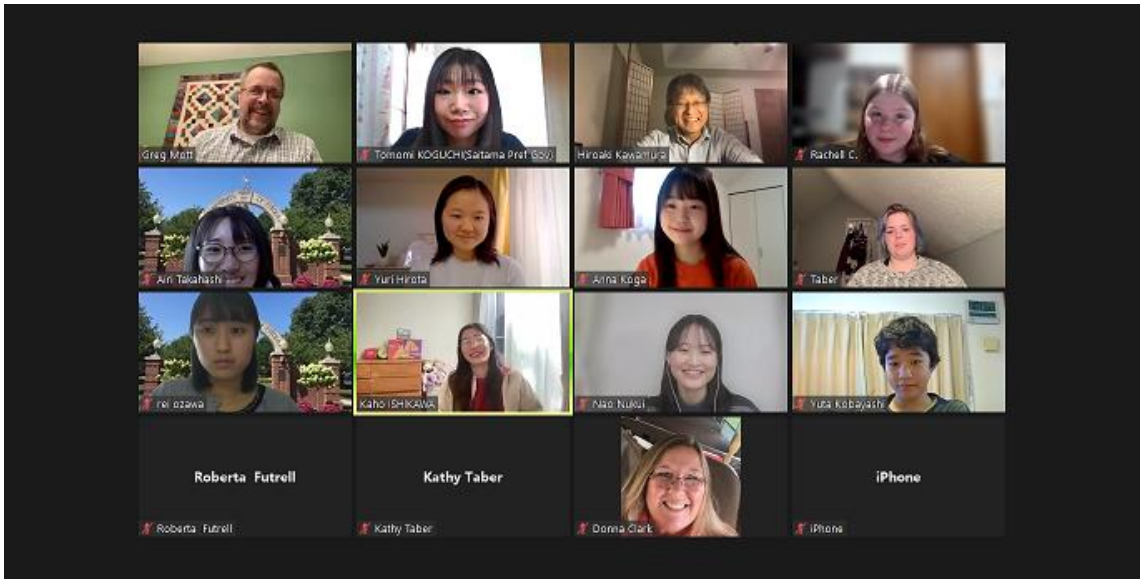
令和４年度　埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム　前期
最終レポート

貫井菜緒

1.　授業

日々の授業では、メンバー5 名の意見を発信する場を数多く設けていただきました。冒頭では直近 2 週間であった印象的なエピソードについて共有しました。先生や他のメンバーがそれに対して質問をするという形だったため、日常的な会話をする練習の機会となりました。それと同時に、リラックスして授業に臨める環境をつくっていただきました。

中でも最も印象に残っているのは、転換語について学んだ回です。これは、プレゼンのトピックが変わる際に、よりスムーズに進めるために用いる表現のことです。これまでは、ナンバリングを中心に発表をしていましたが、授業を通して新たな言い回しを知ることができました。例えば、直前まで話していた内容をまとめて次につなげる方法、発表者を指すＩではなく、プレゼンで主体となる人を主語に置く方法など、これまで当たり前のように用いていた表現の他にも多様な例があるということを学ぶことができました。授業内で学んだことが、成果発表会のプレゼンでも活かされたと感じております。



授業内プレゼンテーションの様子

2.　ペアとの交流

プログラム開始後には、フィンドレー大学の学生がペアになってくれました。定期的にミーティングを行い、アメリカと日本の生活について情報を共有したり、プレゼン前には内容を相談しつつスライドを作成したりしていました。個別のサポーターがいるという安心感が非常に大きかったと同時に、幅広いトピックについて英語で理解し伝える力が身に

ついたように感じております。

特に印象的だったのは、大学での過ごし方についてです。ペアの方が「サンドバレーボールやコーンホールというゲームをよくしている」というメッセージを送ってくれました。日本における大学生の過ごし方とは全く異なるものだったため、初めに聞いたときには非常に驚きました。授業後に大人数でスポーツを楽しむという点は、日本では珍しい、アメリカならではの特徴なのではないかと感じました。また、それを友人と楽しんでいる動画を撮影してくれたため、アメリカではどのように時間を過ごしているのか、具体的にイメージすることができました。また、これをきっかけに、お互いの学校生活について共有を始めました。日本とアメリカという地理的には離れた環境の中でしたが、それぞれの日常生活に触れることができた貴重な時間であったと感じています。

3. 親善大使としての活動

前回のレポートで記載した通り、12 月にメンバーで川越を訪問しました。「埼玉県だからこそ経験できる場所」をはじめ、複数の軸に照らし合わせて訪問先を選定しました。当日は、小江戸を散策してさつまいもグルメを食べたり、氷川神社でおみくじを引いたりと、川越ならではの魅力を再発見することができました。また、撮影した写真をプログラムのインスタグラムに投稿し、情報の周知を図りました。

この活動を通して得られたことは、普段住んでいる埼玉県の魅力を再発見できたことであると考えています。川越には数回訪れたことがありましたが、今回を機に歴史や伝統について改めて調べ、学ぶ機会となりました。埼玉、ひいては日本について、外から見るような意識が生まれ、視野が広がったように感じています。

4. 成果発表会

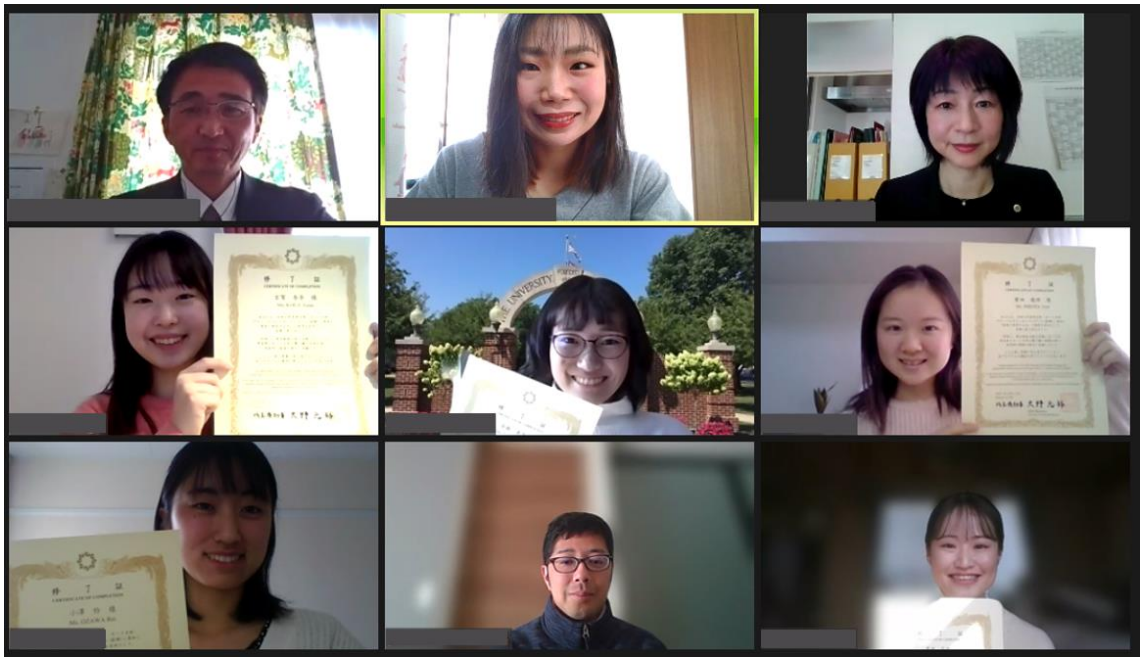
講義最終日からは、2 月の成果発表会に向けて会議や準備を行いました。プログラムに参加していた 5 名で約 30 分のプレゼンを行うというもので、発表個所を分担しながら事前準備を進めました。内容としては、プログラムのまとめ、ホフステードのモデルに関する説明、学び、埼玉県での活動という 4 点を取り上げました。視聴者の多くが海外からの参加者であったため、アメリカの授業スタイルと異なる点を明確にし、具体的なエピソードを踏まえて話すように意識していました。

また、中学生、大学生、社会人と、生活スタイルの異なるメンバーが集まっていたため、準備の進め方も工夫をしました。具体例としては、次の 2 点が挙げられます。1 点目は、Google スライドを用いて資料を作成したことです。各メンバーが都合の良いタイミングで編集を進め、進捗状況がリアルタイムで反映されるようにしていました。それにより、全体像を把握しながら個々の作業を進めることができ、スライド提出時もスムーズに行うことができたと感じています。2 点目は、LINE で適宜連絡をとり情報共有・意見交換を行ったことです。担当箇所の決定やディスカッション内容の相談など、各自が思いつい

たタイミングで意見を共有する形をとっていました。そのため、全員の方向性を統一した状態で準備を進めることができました。

そして、発表数日前には、リハーサルも行いました。当日の流れや今後やるべきことを明確化させました。私たちは、プレゼンの他にディスカッションの進行も担っていたため、スムーズに進めるためにすべきことをはじめ、様々な点について話し合いを行いました。

当日は、20 名を超える方々が視聴してくださり、とても嬉しかったのを覚えています。発表を終えて、「埼玉県を訪れたくなった」「アメリカでの考え方は、日本のものと全く違うことに驚いた」といった感想もいただいたため、大きな達成感を得られました。また、今回の発表会では、私たちのプレゼン後に意見交流の時間も設けられていました。具体的な内容としては、これまで学んできたホフステードの 6 次元モデルについて、日本とアメリカにおける事例のディスカッションを行いました。12 月まで受けていた授業形式とは異なり、1 つのテーマに対してネイティブの学生からの意見が飛び交うという環境でした。非常に速いスピードで議論が進むため、情報を整理しつつ考えを述べる難しさを改めて実感しました。それと同時に、留学を疑似体験できたと感じており、非常に有意義な時間を過ごすことができました。



成果発表会の様子

5.　学び

約半年間のプログラムを通して学んだことは、次の 2 点になります。1 点目は、言語学習の難しさと楽しさです。前者に関しては、ペアとの交流や成果報告会のディスカッショ

ンの際に強く実感しました。ネイティブのスピードは比較にならないほど速く、時には一回で内容を理解できない瞬間もありました。そのような際には、授業で学んだ表現を用いつつ、わからないことを明確に伝えることでカバーすることができました。中間レポートにも記載した通り、「言語学習に終わりはない」ということはもちろんのこと、新たな表現を身に付けることで会話の幅が広がるという楽しさも、改めて実感することができました。2 点目は、新たな価値観です。私はこれまで一度も海外に行ったことがなかったため、自身の置かれている環境が当たり前になっている部分が多くありました。今回、日々の授業やペアとの交流、報告会のディスカッションパートなど、多様な価値観を持つ方々と出会い意見を交換したことで、新たな気づきを数多く得ることができました。私たちが学んでいたホフステードのモデルについても、アメリカと日本で具体例が全く違うケースも多くあったため、非常に勉強になりました。多角的な視点についても、このプログラムに参加したからこそ得られたことであると考えております。

6. まとめと抱負

8 月にスタートしたプログラムも、あっという間に最終日を迎えました。ここでは、まとめの一環として関係者の皆様に御礼を申し上げます。

まずは国際課の皆様、約半年間大変お世話になりました。お忙しい中授業や発表会に参加をしてくださり、スクリーンショットと温かいコメントをいただいたことが、特に印象に残っております。皆様のサポートのおかげで、スムーズに進めることができました。本当にありがとうございました。

また、半年間支えてくれたペアとの交流も、本プログラムならではの貴重な経験であったと感じております。プログラム中盤では、日本人とペアが 2 人 1 組でプレゼンを用意し、発表する機会もありました。その準備の際には、英語でプレゼン内容を詰める必要があったため、即座に意見を伝えられず苦労したこともありました。それでも笑顔で話を聞き、意思を汲み取ってくれました。加えて、自然な表現方法も教えてもらい、新たな気づきと学びが数多くありました。感謝してもしきれません。

一緒に学んだメンバーのおかげで、英語学習へのモチベーションが非常に高まりました。堂々と流暢に英語を話すメンバーを見て刺激をもらうことができ、目指すべき方向を改めて認識することができました。加えて、中学生・大学生・社会人と、普段はなかなか関わる機会のない方々と学ぶことができ、日本人の間でも異なる価値観に触れることができました。オンライン中心とはなりましたが、一緒に学び、時間を共有することができて嬉しかったです。本当にありがとうございました。

最後に、今後の抱負を述べたいと思います。本プログラムを通して、自身の課題を再認識することができたと同時に、英語学習への意欲がさらに高まりました。今後も新たな挑戦を大切にし、気づきを得て成長できるよう努力したいと思います。